

【 三郷市内における治水対応などについて 】

- 三郷市は、緩やかな流れの河川に囲まれた低平地であるため、台風などの大雨により河川水位が高い時には、道路側溝や水路に集まった地域の雨水が、河川へと流れ難い地形となっています。
- また、東京湾から約20kmに位置し、潮の干満の影響を受ける感潮河川区間であることから、満潮時は河川の水位が上昇し、河川の水が水路へと逆流するため、排水が流れ難くなり、満潮時と台風などの大雨が重なると冠水が発生し、被害も大きくなる恐れがあります。
- 台風などの大雨時における主な治水対応としては、市内各所に設置している排水機場のポンプにより水路から河川へ強制排水を行っています。しかし、河川への排水量が制限されていることから自然流下に比べ排水量が小さくなります。そのため、大場川や中川などの河川水位を低下させ、水路の水を自然流下により素早く河川へと流すことが一番重要で、且つ効果的であることから、大場川の河川水位が上昇する場合には、大場川上流排水機場や下流排水機場のポンプにより河川水位の低下を図り、浸水被害の軽減に努めています。
 - ※大場川上流や下流排水機場は県の施設ですが、市が県より委託を受けポンプなど操作を行っています。
 - ※台風やゲリラ豪雨により大場川の河川水位が上昇し、浸水被害の恐れがある場合には、昼、夜、平日、休日関係なく、いつでも市の職員が大場川上流や下流排水機場のポンプを運転できる体制を整えています。
- また、中川の水位が上昇する場合には、国土交通省で管理している三郷排水機場のポンプにより、河川水位の低下を図り、三郷市を含めた中川に排水をする広い地域における浸水被害の軽減に努めています。
- 更には、道路側溝や水路に集まった地域の雨水を素早く河川へ流すために、市内各所の水路に設置しているポンプや、中央監視設備によるポンプの運転状況、水位などを把握し、より効果的な排水ができるよう努めています。
 - ※中央監視とは、ポンプ場の運転状況などをパソコンやスマートフォンにより、リアルタイムで把握（監視）でき、また、遠隔操作機能の整備によりポンプやゲートなどが遠隔操作できる設備のことで。
- そのほか、地域の雨水が河川へと一斉に流れ込まないように、一時的に雨水を貯留し河川への負担の軽減を図るための調整池や、また、河川の水位が基準値以上と高くなる場合に、排水を調節するための調節池など、国や県、市で管理している大小様々な治水施設により、市内における浸水被害の軽減に努めています。（市に関わる治水施設は、現在約50箇所あります。）
- 今後も、台風などの大雨時における治水対応については、国や県、市が連携を図り、市内における治水施設の効果的な稼働により、浸水被害の軽減に努めてまいります。
- なお、令和元年度から令和3年度に実施した、県・市連携の浸水対策事業による大場川下流排水機場のポンプ増強工事により、大場川に排水している地域における治水安全度の向上が、更に図られるものとなります。

【 市に関わる河川の概要 】

- ・三郷市は河川に囲まれた地域で、東に江戸川、西に中川、中央部に中川と江戸川を結ぶ三郷放水路が流れており、国土交通省で管理している1級河川になります。
- ・三郷放水路は平常時、中川と三郷放水路の境にある三郷水門により閉じられており、台風などの大雨により中川の水位が高くなり、三郷排水機場のポンプにより江戸川への排水が必要な場合には、三郷水門を開け放水路内に水を取り込み（ポンプで）江戸川へと排水しております。
- ・埼玉県で管理している河川については、市内を縦断的に流れる大場川と三郷放水路手前で大場川と合流する第二大場川があり、何れも吉川市を起点に三郷市内を流れ最終的には中川へと合流している1級河川になります。（市内の排水は、最終的に全て中川へと合流する。）
- ・また、大場川と三郷放水路が交差する箇所は、大場川が三郷放水路の下を潜る（伏越し）構造となっており三郷放水路とは繋がっておりません。
- ・第二大場川につきましては、三郷放水路が建設される以前は、大場川と同じように市内を縦断的に流れておりましたが、三郷放水路の建設により南北に分断され、南側の第二大場川については、準用河川として市で管理する下第二大場川となっております。
- ・その他、市で管理している河川としては、半田公園の南側を東西に流れる彦成川があります。

【 水害に大きく関わる潮位（干潮と満潮） 】

- ・三郷市は、東京湾から約20kmに位置しているため、潮の満ち引き、つまり干満の影響を受ける感潮河川区間であることから、潮が引いている時は、上流から下流（海）へ向かって水が流れ河川の水位が低くなります。逆に潮が満ちている時は、下流（海）から上流へ向かって水が逆流するため河川の水位が上昇するという現象が起こります。この現象は、1日2回ずつ（約6時間の間隔で）繰り返されています。（逆流は河川へ繋がる水路側へも流れ込むため、雨が降っていなくても水路の水位が上昇する。）
- ・また、その中で潮の高い大潮の期間と低い小潮の期間があり、約1週間の間隔で繰り返されており、潮の高い大潮の期間で、且つ、満潮の時間帯では、非常に河川の水位が高くなり、このタイミングで大雨が重なると、水路や河川へ雨水が流れ難くなり、冠水が発生し、被害が拡大する可能性が高くなります。